

令和6年度 まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

開催日時	令和6年8月21日(水)	10時30分～11時30分
開催場所	半田市役所 大会議室	
会議次第	【議題】 基本目標4「安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる」 ①所管課長説明 ②質疑 ③評価	
出席委員	(委員長) 鈴木委員長 (委員) 亀山委員、福井委員、河治委員、遠藤委員、林委員、 沢田委員、福田委員、山本委員	
事務局	企画課長、企画課(内田・中村)	
出席職員	市民協働課長、防災監、環境課長、産業課長、健康課長、建築課長、 学校教育課長、生涯学習課長、スポーツ課長、博物館長、 新美南吉記念館長、半田病院管理課長	
議事概要		
①所管課説明	資料及び事前質問回答に基づき、説明(企画課長)	
②質疑	【委員】 畜産臭気対策に関して、臭気を抑える方法等のアドバイスを畜産農家に行っているか。 【産業課長】 臭気低減に関する相談を受けた際は、本市が仲介して専門知識を有する愛知県の農業総合試験場への相談につなげている。 全国的にも抜本的な臭気対策の手法はないため、低減につながる取組を着実に進めていく必要がある。ここ数年は糞尿の含水量の削減を重点的に呼びかけているが、飼料価格等の物価全般の高騰により、畜産農家が臭気対策に取り組む余力がなくなっている。畜産は地場産業でもあるため、畜産振興と臭気対策の両方を進めていきたい。 【委員】 第九回はんだ山車まつりの期間中に博物館に阿久比町の山車を展示したとあるが、これまでに同様の事例はあるか。 【博物館長】 第八回はんだ山車まつりの際には常滑市の山車を展示した。 【委員】 他市町の山車の展示により、市外からの博物館への来館につながることも考えられる。山車まつり期間中以外にも同様の取組を検討してほしい。 【委員】 健康づくりに関連して、住民健診の受診率はどれくらいか。	

【健康課長】

受診率としては算出していないが、令和4年度の実績として約1,600名が受診した。住民健診は各公民館で毎年度実施しており、今後も受診促進のための周知を図っていきたい。

【委員】

がん検診等促進事業において、ナッジ理論を用いた個別勧奨を行ったとあるが、具体的に何をしたのか。

【健康課長】

例えば「受診をしないことでがんの発見率が〇〇%下がる」等の文言を案内文等に入れることにより、受診促進につなげた。

【委員】

防災対策として、水の備蓄等はどのような状況であるか。

【防災監】

本市では、地震により避難所に避難する最大人数を12,000人と見込んでいる。そのため、12,000人分の様々な備蓄品を用意している。また、飲料水についても、1日3リットルとして3日分×12,000人分を既に備蓄している。また、水道水に関して、43か所の指定避難所につながる水道管の耐震化が既に図られている。そのため、災害時に各家庭で断水した場合には、各指定避難所内の応急給水施設にて給水活動を行い対応していくことを想定している。

【委員】

普段は水道管の一部としてタンク内を水が流れ、災害時に弁が閉まり貯水タンクとなるような設備は市内の避難所等にあるか。

【防災監】

市役所の庁舎には同機能を有する設備があるが、市内の避難所にはない。

【委員】

KPI「郷土の文化に関心を持っている市民の割合」について、山車まつりや新美南吉等、文化への関心につながる地域資源や取組もあるように思われるが、現状の実績値（令和5年度：44.2%）についてどう認識しているか。

【博物館長】

令和5年度には、山車まつりや新美南吉の生誕事業、博物館での企画展等を実施したにもかかわらず、このKPIの数値が伸び悩んでいることは課題であると認識している。博物館の来館者数は伸びているものの、そもそも郷土の文化に関心がある方たちが博物館等に訪れていると考えられる。関心が薄い方たちに向けてどのようにアプローチしていけばよいか検討を進めたい。

【委員】

文化財等公開活用事業について、古文書等の未公開資料も公開したとある。今後、旧中埜家住宅を始めとして文化財の公開を行っていく方針はあるか。

【博物館長】

国の動向としても、文化財の保存・保護から活用という方向性に転換しつつある。例えば、旧中埜家住宅はこれまで冬の期間の公開は行っていなかったが、令和5年度に新たに体験型写真館という企画趣旨で公開したところ、多くの来場者があった。令和6年度には、月に3日程度、定期的に公開することとしている。今後も文化財を活用した新たな取組を検討、実施することにより、日常的に市内外からの来場者を増やしていきたい。

【委員】

社会科見学等で子どもたちが市の文化に触れる機会はあるか。

【博物館長】

市内すべて小学校3年生を対象として、博物館、図書館、新美南吉記念館、半田赤レンガ建物を見学する企画を小学校の授業に取り入れている。

【委員】

KPI「半田病院における入院全体について『ほぼ満足である』以上の評価をした患者の割合」の目標値は、90%とかなり高い目標設定に思える。

【半田病院管理課長】

コロナ禍によりお見舞いの制限等があったため、ここ数年の満足度は低調であるが、もともとの基準値は88.9%であり、満足度の向上の目標値としては適切であると考えている。

【委員】

KPI「メタボリックシンドローム該当者の割合」について、40歳代前半で既に愛知県平均より割合が高いとのことだが、男女の性別での差はみられたか。

また、若い世代でも比較的取り組みやすい「間食」をテーマとして食生活改善を目指す取組を実施したとあるが、こういった背景で実施に至ったのか。

【健康課長】

メタボリックシンドローム該当者の割合は、男女ともに県平均より高い状況にあるため、性別を問わず対象として改善に向けた取組を進めていきたい。その一環として、令和5年度に「間食」をテーマとして食生活改善を目指す取組を実施した。国民健康保険の40歳～65歳の加入者のうち、特定検診の値が高かった方に対して取組の案内をした。5週間のチャレンジ期間中に、低GI食品を取り入れた食生活改善に取り組んでいた。実際にその後の検査の値が下がった参加者もあり、一定の成果が得られたと考えている。令和6年度はお酢の摂取も併せて行うなど、取組の改善を進めていきたい。

【委員】

多文化共生の取組として、外国籍市民と日本国籍の市民が協働した取組はあるか。

	<p>【市民協働課長】 令和5年度において、半田中学校避難所運営委員会と共催した防災イベントでは、防災講座の多言語翻訳およびブラジル・ベトナムの遊びを体験できるコーナーを設け、多文化交流を促した。また、横川地区で行われた「横川夏祭り」では、食文化をテーマとした交流として、広報チラシや場内アナウンスの多言語翻訳等に協力した。</p>
<p>③評価</p>	<p>【委員】 A評価。 多文化共生の推進に向けて多種多様な取組が行えている。文化芸術分野においても、子どもの頃から文化芸術に触れられる機会を設けられている。</p> <p>【委員】 B評価。 様々な取組を行えていることは評価できる。一方で達成度が伸び悩んでいる指標ある。</p> <p>【委員】 A評価。 改善の余地はあるものの、全体としては順調に取り組んでいる。</p> <p>【委員】 A評価。 これまでの事業評価を経年での状況や、目標値自体がかなり高く設定されていることをふまえた評価とした。取組全体としては、基本目標4の基本的方向性に沿って進められている。</p> <p>【委員】 B評価。 施策効果が出てきているものもあるが、一方で KPI の達成度が伸び悩んでいるものもある。</p> <p>【委員】 A評価。 目標値自体が高く設定されている指標もあり、達成度にばらつきがみられる。市民の生命や暮らしを守る、安心・安全なまちづくりという視点からの取組を行えている。</p> <p>【委員】 B評価。 指標の達成度にばらつきがみられ、伸び悩んでいるものもある。</p> <p>【委員】 A評価。 全体としてある程度順調に取り組まれている。</p>

【委員】

B評価。

指標の達成度が伸び悩んでいるものもある。

一方で、現状の課題をふまえて取組の改善が行えていることは評価できる。ただし、市民が安心だと感じられるまちづくりという視点から考えると、取組の実施だけでなく、取組の周知も行うことで市民の安心感・安心できるというイメージを高めていく必要がある。

全体としての評価は、A評価。